

特集！2023年度ブロック学習交流集会

中国・四国・九州ブロック学習交流集会

2023/8/19~20
(長崎県川棚町)

中国・四国・九州ブロック学習交流会は、4組織22名がつどい、大盛況のうちに終わりました。

初日は、長崎高・実習教員部長の東川さんから「普段の仕事の中で、おかしいと思うことなどを腹の底から出しきりましょう」という掛け声のもと、「ここが変だよ、うちの学校(県)」「これって変、まさかわが校だけ？」の討論議題に沿って各組織から現状が報告されました。さらに各県の組織状況と諸課題へのとりくみについても、活発な意見交換がおこなわれました。最後に東川さんが全体のまとめをおこない1日目が終わりました。



組織を越えて共通する課題も多く、私たち実習教員部はこれからはブロックの繋がりを大切にしながら頑張らなければいけないと思いました。

2日目は針尾送信所を見学しました。針尾送信所は鉄筋コンクリート製の塔で、大正11年に旧日本海軍によって建設されました。いずれも高さ約136m、周囲38m、塔の底面積115㎡(畳74畳分)の無線塔3本が300mの間隔を置いて正三角形に配置されています。針尾無線塔保存会の方から建設当時の様子や、どのように使用されていたか、建設から100年が経った現在でも耐震強度が維持されていることなどを学びました。



この集会では、各組織の情報交換が活発におこなわれ、青年層の参加も多く充実した2日間でした。主催してくださった長崎高の皆さま大変お世話になりました。来年度は山口県での開催を予定しています。たくさんの参加をお待ちしております。



北海道・東北ブロック学習交流集会

2023/9/16~17
(北海道小樽市)

開拓の歴史が色濃く漂い、明治初期から北海道の玄関口としての役割を担ってきた小樽市、今年で市制100周年を迎える記念すべき年に、北海道・東北ブロック学習交流会が小樽市で開催され、

北の大地に 11 名がつどいました。実習教員部・常任委員の藤元さんも参加した集会となりました。

まず初めに小樽市の開拓について説明があり、今日の小樽運河が現存しているのは「民の力」による、運河存続に向けた行政への強い働き掛けがあったことを学びました。その後の市内散策では、歴史建造物の見学をはじめ、漁業の変遷や、北の大地に生きる動植物について学習しました。

2 日目は藤元さんより「わかりやすい実習教員部運動のすすめ」の資料をもとに、今日の実習教員が直面している状況について説明があり、それらの解決のためにも組織拡大が必要であると、全教実習教員部作成の加入リーフレット「あなたも私たちと一緒に」を用いて、明快なミニ講演がありました。また、各組織の交流では、「高校職業学科における『実習助手』制度の歴史-その形成過程を中心に-」と題した資料をもとに、実習教員が配置された歴史的経緯や、教諭一元化の全国運動が発起した背景について議論を深め、「実習助手」制度改革に向けた署名へのとりくみについても確認されました。また情報交換では、実習教員の待遇改善に向けたとりくみの様子が語られました。

最後に集会アピール「平和憲法を守り生かし、子どもたちが安全・安心の中、生きいきと学べる学校教育、実験・実習教育をめざしましょう」(添付資料参照)が採択され、少人数でありながらも熱気に満ちあふれた 2 日間の集会が終わりました。今ブロック集会の成功に向けてご尽力頂いた皆様に感謝申し上げます。



近畿ブロック学習交流集会

2023/11/4
(滋賀県草津市)

11 月 4 日(土) 18 名が参加し近畿ブロック学習交流集会を開催いたしました。全教実習教員部・担当書記の方も参加した集会となりました。

集会では、各組織の状況や課題が報告されました。大阪高からは、近年は毎年多くの新規採用があり、障害者枠で採用された方が学校で仕事するにはサポートが必要のため、教育委員会は雇い主として支援員を含めて障害者枠の採用をしてほしいと要求していること、新規採用者に歓迎の会をおこなったこと、定期的にアンケートをおこなうなどの報告がありました。京都高からは、実習教員の拡大が

難しく進んでいないこと、どのようなアンケートを取ったらよいかの悩みが報告され、それを受けて大阪高から資料の提供がありました。滋賀からは、長年要求してきた実習教員のクラブ単独引率がみとめられた経過の報告がありました。兵庫高からは、県の理科学研究会でおこなっている「学校の理科室訪問」について報告され、学校で工夫している試験管の洗浄の器具や薬品の片づけ方法などを交流しているとのレポートがありました。

兵庫高や和歌山高などでは、実業系(工業)の実習教員が若年で退職される事例や理科以外の教科の兼務を指示されることや、採用後の職務内容に IT の管理がくわったなど、現場での課題が多く報告されました。各組織共通の課題として、再任用者の 2



級格付けや、採用年齢が高齢になり定年までに2級格付けの制度が利用できないことなど、賃金や職務についての課題や要求が確認されました。

また、全教実習教員部が進める制度改革検討委員会について報告があり、本年度から近畿ブロックより検討委員として1名を選出して議論に参加していただくことが確認されました。

各組織の悩みや課題について話し合いながら、共同していくことの大切さを確認できた交流会となりました。



北陸・中部・東海ブロック学習交流集会

2023/11/25~26
(愛知県半田市)

11月25日(土)アイプラザ半田にて中部ブロック学習交流集会を開催し、6組織(岐阜、富山高、長野高、名高教、福井高、愛知高)15名が参加しました。全教実習教員部・担当書記の方も参加した集会となりました。また10月の全国学習交流会でもお会いした方々とも久しぶりの再会となりました。



初めに愛知高本部・仲さんと実習教員部長・村上さんのあいさつがあり、参加者の自己紹介の後、各組織での県教委交渉内容や各校の現状について話し合いをおこないました。学校統廃合、タブレット、呼称、2級格付け、教員免許取得のため認定講習、実習教員の新規採用や障害者枠、部活動引率、業務に必要な資格免許取得についての補助、特別支援学校の実習教員の働き方などの改善を求めた各県での交渉の報告がありました。各県教委より良い回答はあまり得られず、根気強く交渉していかなければならないと思いました。富山高の交渉内容に学校司書(実習教員で採用)もあることに皆さん関心を持たれていました。長野高では農業科で妊娠された実習教員への代替非常勤教員の配置など県から良い返答などあり、他県でもすぐにとりくめる内容もありました。最後に来年2024年度開催予定の福井高へ愛知高より横断幕の贈呈式があり、全体写真を撮り初日が終了しました。



横断幕贈呈式

26日(日)は「味ぽん」で有名な「ミツカンミュージアム」を見学。ミツカンは酒作りから出た酒粕を用いて酢を作り現在のような大企業に成長しました。ミュージアムでの展示も素晴らしく大変楽しい90分の見学でした。



ミツカンミュージアム見学

また歴代社長が中埜又坐衛門を継承しているのが歴史を感じさせられました。その後すぐ隣にある「國盛 酒の文化館」を見学し、様々な酒作りに必要な道具や歴史を学びました。中埜酒造の歴史も大変興味深いものでした。江戸情緒が残る半田運河と蔵の街半田市を十二分に楽しめた中部ブロック学習交流集会でした。



12月16日(土)~17日(日) いこいの村涸沼(ひぬま)にて開催いたしました。今回の集会では全国高校組織懇談会(高校懇)、現業職員部、実習教員部の各関東・甲越ブロックの方が一堂につどう中での開催で、全教実習教員部：関東・甲越ブロック担当の魚住さんと全教実習教員部・担当書記の方も参加した集会となりました。



初日、実習教員部では、参加したメンバーが障害児教育にかかわっていることから、障害児教育における現状や課題について話をおこないました。

障害者における(療育手帳)区分の表記の違いや、普通高校の空き教室を利用した「分教室」での授業運用など、各県や地域に応じて学校の実態や運用が異なっていることなど、あれこれと話題が尽きず大変盛り上がりました。改めて障害児学校における設置基準や教育環境を含め、実態に即したものにしていく必要性を感じました。そして「実習教員」という立場がゆえに起きる教育上の悩みをどのように解決したらよいかなど、直面している課題にみんなで案を巡らせ、交流をすることができました。



また、実習教員部におけるとりくみについて触れ、オンライン交流会に教諭(専門)の先生の参加要請があったらいいのではないか、定年延長における賃金問題をもっとリアルにわかる資料作り、勤務実態調査から見える課題や署名活動における課題など、今後の実習教員部運動に対するご意見が寄せられました。

2日目は高校懇と合同で開催され、「実習教員部運動」について、今までの経緯とこれからの展望について説明をおこないました。教員免許が取得できない理科や特別支援の実態をはじめ、学校現場で起きる様々な矛盾を明らかにすることで、私たちが進めている制度改革の重要性について理解を示して下さるとともに、様々なアドバイスをいただくことができました。なかでも部活動における引率問題について「大会運営組織から発文される開催要項が実習教員の参加を認めていない記載が多々あることにより、その結果、組合として後押しができていない」といった、私たちの運動をより実態に応じたものにするための課題を共有することができました。各組織を率いている執行委員長や書記長の方々がつどう高校懇と懇談し情報を共有できたことは、実習教員部運動を進める上で大変有意義であったと思います。そして現業職員部の先生方との交流の中で「学校で働いている人は皆、先生！」と横のつながりを深め、互いに激励することができました。

魅力度ランキング最下位という茨城県だそうです、これほど熱く、深く交流できる集会を企画した茨城県は全国1位ではないでしょうか。



各道府県の実教部ニュースの交流について

各道府県の組織で作成されている実習教員部ニュースを交流していこうと思います。
ニュースを発行された時には、ぜひ全教実教部へも送付してください。
(メール：jikkyo@educas.jp)